

注目の展覧会や現代演劇、市民参加型イベントが続々登場

「ジャポニスム 2018：響きあう魂」 11月から始まる公式企画・最新情報のご紹介

11月のパリはコンコルド広場に観覧車が登場し、シャンゼリゼ通りはクリスマスイルミネーションが始まります。ボジョレーヌーボの解禁をはじめとしたワイン市やクリスマスマーケットが各地で開かれ、冬のホリデーシーズンの美しい街並みを愉しむことができるのもこの時期ならではのパリの過ごし方といえるのではないのでしょうか。

2018年7月より会期がスタートした日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」では、まだまだ日本を代表する文化プログラムが実施されます。メディアの皆様におかれましては、この機会に是非貴媒体にて、このジャポニスム 2018 をご紹介下さいますよう、何卒宜しくお願いいたします。

● 最新情報

「地方の魅力」—祭りと文化

「祭り/踊り」に6万人が訪れる

ジャポニスム 2018 の目玉事業の一つである「地方の魅力—祭りと文化」が10月17日（水）～27日（土）まで、アクリマタシオン庭園とパリ日本文化会館を会場に、14の自治体との共催により開催され、7つの「祭り/踊り」と15の「地方文化紹介」企画を実施しました。

10月20日（土）～22日（月）に行われた「祭り/踊り」には、パリ市民憩いの場所、アクリマタシオン庭園において、五所川原立佞武多（青森県）、行徳神輿（市川市）、鬼剣舞・さんさ踊り（岩手県）、よさこい（高知県）、春日若宮おん祭（奈良県・奈良市）、阿波おどり（徳島県）、信玄公祭り（甲州軍団出陣）（山梨県・甲府市）が参加しました。パレードやステージを使ったパフォーマンスにより、日本各地伝来の祭りや踊りを披露し、見物に訪れた方も一緒になって踊る姿が見られました。同庭園内には日本の屋台村も作り、たい焼きやたこ焼きなどの屋台が並び、家族連れで大賑わいでした。この催しには、3日間で約6万人の来場者がありました。アクリマタシオン庭園にとっても記録的な数だそうです。

他の日には、エッフェル塔間近のパリ日本文化会館にて「地方文化紹介」企画が行われました。民俗芸能の公演、伝統工芸ワークショップ、展示、講演などを通じ、日本の彩り豊かな地方文化を楽しく体験するイベントを実施しました。



報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp



● 11月から始まるジャポニスム 2018 公式企画ラインナップ

◀ 展覧会 ▶

※ラインナップは次頁に続きます、各企画の内容は次頁以降をご覧ください

タイトル	会期	会場
「ジャポニスムの150年」展	11月15日(木)～ 2019年3月3日(日)	装飾美術館
「MANGA⇔TOKYO」展	11月29日(木)～ 12月30日(日)	ラ・ヴィレット
【特別企画】パリ東京文化タンデム2018 からくり人形の動態展示	11月2日(金)～3日(土)	パリ日本文化会館

◀ 舞台公演 ▶

タイトル	会期	会場
現代演劇シリーズ—木ノ下裕一監修・補綴 杉原邦生 演出・美術 木ノ下歌舞伎「勧進帳」	11月(木)～3日(土)	ボンポドゥ・センター
【2.5次元ミュージカル】"Pretty Guardian Sailor Moon" The Super Live	11月3日(土)～4日(日)	パレ・デ・コングレ・ド・パリ
宮城野郎演出『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』 (11月22日休演)	11月19日(月)～25日(日)	ラ・ヴィレット
現代演劇シリーズ—藤田貴大演出『書を捨てよ町へ出 よう』	11月21日(水)～24日(土)	パリ日本文化会館
現代演劇シリーズ—岩井秀人構成・演出『ワレワレの モロモロ ジュズビリエ編』	11月22日(木)～12月3日(月)	国立演劇センター ジュズビリエ劇場

◀ 映像 ▶

タイトル	会期	会場
『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』特別上映会	11月9日(金)～10日(土)	パリ日本文化会館
日本映画の100年「日本映画再発見(4Kクラシック 傑作選)」	11月21日(水)～ 12月21日(金)	パリ日本文化会館
河瀬直美監督特集 特別展・特集上映	11月23日(金)～ 2019年1月6日(日)	ボンポドゥ・センター
KINOTAYO 現代日本映画祭	①11月～12月	①ル・ヴォバンII(サン・マロ)、ル・メリエス (ポー)、スター(ストラズブル)、リュミエ ール・ベルクール(リヨン)、ラストレ(シャンペ リ)、ル・カネ・トワール、シネトワール・ロシュヴ イル(ル・カネ)、ロランピア(カンヌ)、マリ マージュ(マリ)

◀ 生活文化他 ▶

タイトル	会期	会場
【特別企画】パリ東京文化タンデム2018 FUROSHIKI PARIS	①11月1日(木)～6日(火) ②(展示)10月30日(火)～11月 10日(土) (ワークショップ)11月2日(金)、10 日(土)、17日(土)、24日(土)	①パリ市庁舎前広場 ②パリ日本文化会館
伝統工芸シリーズ 日本の木で繋ぐ「和」の空間	11月(金)～12日(月)、 17日(土)～24日(土)	パルク・expo/ヴァッケン(ストラズブル・サロ ン・レゾナンス)、ESPACE DENSAN (Maison WA内)
高校生ニッポン文化大使	11月17日(土)	パリ日本文化会館

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央(070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

タイトル	会期	会場
日仏ダイアログ② 俳句討論会「クローデルの日本ー『百扇帖』をめぐる」	11月20日(火)	パリ日本文化会館
日仏ダイアログ③ 講演会「ジャポニスム：北斎とセザンヌ」	11月22日(木)	パリ日本文化会館
「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ 日本のお酒試飲の夕べ 第1弾	11月6日(火)、12日(月)、21日(水)	パリ市内のワインバー (le rouge et le verre, Gouquette, 116 pages)
「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ 日本食アトリエ<調理師学校・シェフ向け>	11月19日(月)	ギョーム・チレル調理師職業校
「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ 日本茶アトリエ	11月19日(月)	コルドン・ブルー

■ 11月の注目プログラム

◀映像▶

近年いよいよ脂が乗って活躍を続け、「ジャポニスム 2018」公式オープニングで新作が特別上映された河瀬直美監督の半生を、特別展と回顧上映会で追います。

河瀬直美監督特集 特別展・特集上映

「ジャポニスム 2018」公式オープニングで新作『Vision』が特別上映された映画監督、河瀬直美の半生を、特別展と映画上映会で描きます。現代美術の殿堂、ポンピドゥー・センターからの熱い要望で企画が実現しました。

特別展では、「生命」「自然」「世界」「家族」といった、河瀬映画に共通するテーマを、インスタレーションや映像などさまざまな表現で紹介します。一方特集上映においては、初期の短篇から最新作まで、カンヌ国際映画祭受賞作品、そして監督のプロデュース作品等を含めた映画作品約40本以上を一挙に上映します。



photographed by LESLIE KEE

◀舞台公演▶

岩井秀人×国立演劇センタージュヌビル劇場の日仏コラボレーションがフェスティバル・ドートヌ・パリで実現。ジュヌビルに生きる人々を取札しながら、フランス人と初の共同制作に挑む！

現代演劇シリーズ—岩井秀人構成・演出『ワレワレのモロモロ ジュヌビル編』

国立演劇センタージュヌビル劇場新芸術監督ダニエル・ジャストーが、現代日本演劇シーンを代表する劇作家・演出家の岩井秀人（劇団ハイバイ主宰）にアソシエイト・アーティストとして2018年秋発表の新作をオファー。16歳から20歳の間ひきこもり生活を送っていた岩井は作品を通して、自由でエスプリのきいた表現を駆使し、儚く美しいながらも躍動感のあるタッチで様々な側面を持つ現代社会やそこに生きる人々の生き様を描き出します。

今回の新作はアマチュア・プロに限らずその人自身の人生を演劇にするプロジェクト。2018年秋の本番に向けて、岩井はジュヌビルに複数回滞在しながら、ユニークな人生経験を持つ住民や俳優とワークショップや稽古を重ね、台本を作ります。彼らと共に生み出される岩井の初・日仏共同制作に乞うご期待！



©Guillaume Deloire

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

「展覧会」

装飾美術館の日本美術コレクションと、日本から出品される工芸作品等、さらに、現代の作家、職人、デザイナーらの作品も展示。19世紀後半から現代までの工芸、デザイン、ファッションを横断的に紹介。

「ジャポニズムの150年」展

本展では、パリの装飾美術館の10,000点を数える日本美術コレクションから厳選された作品を中心に、日本から貸し出される作品、日本の影響を受けて欧州で制作された作品を加えて構成し、19世紀後半から今日までの150年にわたる日仏両国の芸術上の相互影響に焦点をあてます。

2,000㎡を超える大規模な本展は、発見者、自然、時間、革新、動きという5つのテーマに沿って展開され、美術工芸品からプロダクト・デザイン、グラフィックアート、ファッション、写真も含めて幅広い芸術作品がジャンルを横断して展示されます。



Graphisme BETC

都市(東京)を映し出してきた日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮作品と、それらフィクションを注入された現実の(東京)の、複合的体験を提供する企画展示。

「MANGA⇔TOKYO」展

日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮作品は、都市(東京)の特徴や変化を、鏡のように映しだしてきました。本展は、そのさまざまな描写を、多数の原画や模型、映像などでとどめます。現実の都市の特徴がいかにフィクションに影響を与え、方向付けてきたのか。またそれらフィクションやそのキャラクターが、現実の都市にいかなるイメージを重層的に付与し、作用をおよぼしてきたのか。本展は、日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮の展示であると同時に、そこに映し出され、さらには人々の記憶の中で重ね合わされた、(東京)を展示します。「聖地巡礼」など、アニメやゲームが観光資源として注目される中、その意味や可能性に光を当てます。



イラストレーション：吉成曜 ©Cryton Future Media, INC. www.piapro.net/ ©カラ- ©武内直子・P.N.P. 東映アニメーション/ ©秋本治・アトリエピーたま/ 集英社/ ©創通・サンライズ/ ©TOHO CO., LTD.

本催しでは、19世紀前半に「からくり儀右衛門」こと田中久重(1799-1881)が日本各地で行った「からくり人形」の興行を再現します。

【特別企画】パリ東京文化タンドム2018 からくり人形の動態展示

「からくり人形」が制作された江戸時代(1603-1867)は、約250年もの長い間戦乱のない世が続いた世界的に見ても稀有な時代でした。平和が続いたこの間、産業や商業が著しく発展し、職人らの高度で緻密な技術力が醸成しました。なかでも「からくり人形」は、動力や仕掛けに優れた技巧が結集し制作されたものです。田中久重による、文字書き人形、弓曳童子などの「からくり人形」は、見世物興行で披露され、多くの人々を驚かせ喜ばせました。

一方、田中久重は和時計、蒸気機関、電話機など、他の様々な発明でも才能を発揮し、日本の科学技術史にその名を刻んでいます。その足跡は、在来技術から近代技術への推移と発展を体現したものであるでしょう。

このたびのパリ公演は、貴重な「からくり人形」の実演をご覧いただくまたとない機会となります。本公演により、現代まで脈々と息づいている、日本のものづくりの原点を紹介します。



江戸東京博物館での「夢からくり一座」による実演風景

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム2018 PR事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央(070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

◀ 舞台公演 ▶

古典と現代、日本とフランスの境を越え、歌舞伎の可能性を追求する演劇団体・木ノ下歌舞伎、ボンピドウ・センター初見参！

現代演劇シリーズ—木ノ下裕一監修・補綴 杉原邦生演出・美術 木ノ下歌舞伎『勸進帳』

木ノ下歌舞伎は歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する団体。あらゆる視点から歌舞伎にアプローチするため、主宰である木ノ下裕一が指針を示しながら、さまざまな演出家による作品を上演するというスタイルで、京都を拠点に2006年より活動を展開しています。

本作『勸進帳』は2010年の初演後、杉原邦生 [KUNIO] の演出・美術により、2016年に完全リクレーション版として上演。監修・補綴の木ノ下裕一がその成果に対して平成28年度文化庁芸術祭新人賞を受賞するなど、高い評価を得ました。一般的に「忠義の物語」とされる勸進帳を、〈関所＝境界線〉として読み解き、現代社会を取り巻くあらゆる〈境界線〉が交錯する、多層的なドラマへと再構築した木ノ下歌舞伎の代表作です。



提供：KYOTO EXPERIMENT 事務局
©Yoshikazu Inoue

日本の漫画、アニメ、ゲームが原作の2.5次元ミュージカル、いよいよヨーロッパへ！
世界中で愛される「美少女戦士セーラームーン」の魅力を活かした新たなパフォーマンスショーを上演。

【2.5次元ミュージカル】“Pretty Guardian Sailor Moon” The Super Live

漫画「美少女戦士セーラームーン」は1991年に講談社の少女漫画雑誌「なかよし」で連載が開始され、その人気は少女を中心に大人の女性、男性の間まで広がり、従来の枠を超えたブーム、社会現象となりました。

そして1993年、初めてミュージカル化され、2013年、「美少女戦士セーラームーン20周年プロジェクト」の一環として8年ぶりに、出演者が全て女性という新しい試みのもとに新作を上演。2014年夏の公演に続き、2015年1月にはミュージカル「美少女戦士セーラームーン」史上初の中国・上海公演を開催し、現地でも大好評を博しました。

今ではミュージカルを観るために多くの外国人も日本に訪れるほど、2.5次元ミュージカルを代表するビッグタイトルとなっています。また、2017年にはアメリカヒューストンでの「Anime Matsuri 2017」にてショーを行い、1万人を動員。

現在「美少女戦士セーラームーン25周年プロジェクト」として様々なプロジェクトが進行しており、2018年パリでの公演は、世界中で愛される原作の魅力を活かした新たなパフォーマンスショーとして上演を予定しています。



©武内直子・PNP / “Pretty Guardian Sailor Moon” The Super Live 製作委員会

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

世界最高峰のフェスティバルであるアヴィニョン演劇祭で大絶賛された『マハーバーラタ』再びフランスへ！

宮城聡演出『マハーバーラタ ～ナラ王の冒険～』

インドの国民的大叙事詩の中で最も美しく壮大な愛の物語を、絵巻物のように壮麗なビジュアルで描く SPAC 版『マハーバーラタ』。2014 年 7 月、フランスで開催されている世界最高峰の演劇フェスティバルである「アヴィニョン演劇祭」で約1,000席の会場を連日満席にし、スタンディング・オベーションを巻き起こしました。その後も各地で上演を重ね、進化を続ける本作が、「ジャポニスム 2018」に登場します。客席を 360 度取り囲む“リング状”の舞台、重厚な語りと動き、そして俳優による生演奏。2017 年、『アンティゴネ』で同演劇祭のオープニングを飾り、勢いに乗る宮城聡と SPAC が贈る祝祭音楽劇の頂点です。



©Masami Hioki

「言葉の錬金術師」寺山修司の初期代表作をマームとジブシーを率いる若手演劇人の藤田貴大が演出します。

現代演劇シリーズ—藤田貴大演出『書を捨てよ町へ出よう』

没後 35 年を迎える寺山修司の初期の代表作『書を捨てよ町へ出よう』…青春の叙情にあふれるそのタイトルはあまりにも有名ですが、同名の評論集(1967)、舞台(1968)、映画(1971)のそれぞれが別個の内容になっています。

2007 年に演劇団体マームとジブシーを立ち上げ、2012 年に 26 歳の若さで岸田國士戯曲賞を受賞し若手演劇人として活躍を続けている藤田貴大。その藤田が2015年に映画版に依拠しつつ、寺山を思わせる登場人物を配することにより、寺山の評論・舞台・映画を集大成した、寺山に捧げる新たな作品として演出しました。寺山とその作品が常にそうあったように、時代を挑発し、すぐに消えてしまう若さというものに、美しさとグロテスクさを刻み付けた作品になっています。



©Nobuhiko Hikiji

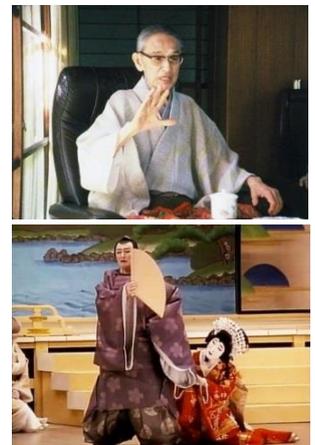
◀映像▶

日本を代表する記録映画作家、羽田澄子監督による日本映画史上空前のドキュメンタリー映画『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』全6部、計10時間46分を、パリ日本文化会館にて一挙上映します。

『歌舞伎役者 片岡仁左衛門』特別上映会

2歳で初舞台を踏み、視力を失った晩年まで現役であり続けた名優、十三代目片岡仁左衛門(1903年-1994年)と、名門プロダクション岩波映画製作所でキャリアを重ねた後、夫工藤充プロデューサーとのコンビで傑出した記録映画を生み出してきた羽田監督との出会い。数々の名舞台はもちろん、楽屋から稽古場、片岡家の日常まで、カメラが黒衣のごとく寄り添い、その芸の深さと人間としての魅力をあますところなくとらえた傑作です。

全編一挙上映の機会は日本でも滅多になく、海外では今回のジャポニスム 2018 が初めてとなります。めくるめく歌舞伎の世界、日本の古典芸能の世界、そして真実と向き合うドキュメンタリー映画の世界を愛する方々には、逃しがたい貴重な機会となるでしょう。



©彼方舎

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央(070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

日本映画の100年の歴史を119本の映画で紹介し、1920年代の作品から2018年の最新作まで、日仏の専門家が共に選ぶ珠玉のラインナップです。

日本映画の100年 第2部 第1セクション「日本映画再発見（4Kクラシック傑作選）」

1920年代から2018年まで日本映画の100年の歴史を、日仏の専門家が共同で選ぶ約100本の映画で辿ります。諸外国の中では比較的日本映画が親しまれているフランスでもまだ知られていない作品や監督にも焦点を当てたラインナップを、3部構成で紹介し、9月～10月には、1945年までの作品を紹介する第1部の上映が、シネマテーク・フランセーズで実施され、好評のうちに終了しました。

第2部「日本映画再発見」は、第二次世界大戦後から2000年代までの、厳選された映画約55本を、2セクションに分けて上映します。11月には、第1セクション、パリ日本文化会館に場を移し、日本映画史上極めて重要な、誰もが知る作品を、最新技術で生まれ変わったデジタル修復版で再発見する機会を提供します。国際交流基金も修復に協力した作品を含め、23本の作品が集中上映されます。日本からのスペシャルゲストの登壇も予定しています。

次いで第2セクション（2019年1～2月）は、シネマテーク・フランセーズで、フランスではまだ知られていない名監督の作品と、よく知られている監督の知られざる傑作を、32本紹介します。



13回目を迎えるKINOTAYO現代日本映画祭。「ジャポニスム2018」では、例年にも増して魅力的なプログラムを紹介します。

KINOTAYO 現代日本映画祭

フランス最大の日本映画祭として、2006年の創設以来、多くの人々が毎年楽しみに待ち望んでいるKINOTAYO現代日本映画祭。フランスでの公開前の最新作を含め、幅広いジャンルの日本の現代映画を数多くフランスに紹介してきました。第13回映画祭は、「ジャポニスム2018」の一環として、例年にも増して魅力的なプログラムをご用意します。



《生活文化他》

【特別企画】パリ東京文化タンデム2018 FUROSHIKI PARIS

パリの市庁舎前にて、建築家・田根剛氏のアートディレクションのもと、「東京からパリへの贈り物」として風呂敷包みをイメージしたパビリオンを設置します。

内部では、風呂敷関連の様々な展示のほか、今日までの風呂敷の様々な使い方を映したビデオプロジェクションなどが展開されます。

展示会のテーマは「風呂敷のアート」で、日仏のアーティストやデザイナーの協力作品が展覧されるほか、参加型デモンストレーションも展開されます。

風呂敷における伝統的な包む技術とは、四角い布を折りたたんで物を包んで運ぶというものです。風呂敷は8世紀（奈良時代）から日本で使われ始め、時が経つにつれて日本人の日常生活に馴染んだものとなりました。

世界初のエコバッグとされており、文化的、環境的、美的特長があるこの伝統技術を世界に発信させるための最高の展示会がパリで開催されようとしています。



FUROSHIKI PARIS
©Atelier Tsuyoshi Tane Architects

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム2018 PR事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-23-5 JPR千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

日本のものづくりの原点、日本各地で長い時間をかけて受け継がれてきた日本の匠の技と美を、工芸品の展示や職人による製作実演とワークショップ等多彩な企画で総合的に紹介します。

伝統工芸シリーズ 日本の木で繋ぐ「和」の空間

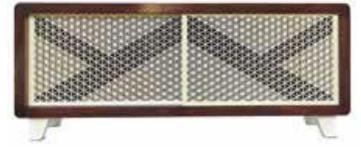
日本各地に伝わる伝統工芸こそ、日本のものづくりの原点です。その繊細なデザインと緻密なつくり、高い品質は、海外からも高い評価を受け続けてきました。「ジャポニスム 2018」においても、それぞれの土地に深く根ざし、長い時間をかけて受け継がれてきた、日本の匠の技を、工芸品の展示、職人による製作実演とワークショップ、講演、映像上映、シンポジウム等、多彩な企画で総合的に紹介します。

伝統工芸シリーズ第2回においては、日本の木をテーマとした企画です。「和」の漢字の成り立ちは、「稲穂」と「口」。人の声と声が調和する「なごむ」を意味します。日本には、古来より「和をもって貴しとなす」という思想があります。この精神は日本人の根底にあり、自然との調和や資源を有効活用する文化を育んできました。日本人が身近にあった木材を余すことなく利用することにより生まれた技術は、現在にも受け継がれています。

木材が「人」と「人」をつなぎ、社会的な「和」に資するものとして、「暮らしを豊かに、人を健やかに、社会を豊かにする」ことを表現する展示を行います。

開催会場はストラスブルとパリ（ESPACE DENSAN）。

ストラスブルでは毎年工芸見本市「サロン・レゾナンス」が開催されており、今年は日本が同展示における招待国として参加します。



高校生ニッポン文化大使

文化大使に任命された日本の高校生3人がパリを訪れ、日本文化の魅力を発信します。

日本の高校生を対象に「文化大使」を公募し、フランスで日本文化の魅力を発信してもらうプロジェクトです。作文などの審査を経て選ばれた12人の高校生は東京・上野の東京国立博物館などで4日間の研修・発表を行い、「高校生ニッポン文化大使」に任命されました。その中の3人が、パリ日本文化会館で開かれている「縄文展」の会場を訪れ、フランスの高校生らに「縄文」の魅力を伝えます。パリへ派遣される高校生たちは、（写真左から）小出遥香さん（お茶の水女子大付属高1年）、蟹江菜々美さん（金城学院高1年）、村川智哉さん（開成高2年）。



日仏ダイアログ

②俳句討論会「クローデルの日本—『百扇帖』をめぐる—」

③講演会「ジャポニスム：北斎とセザンヌ」

<日仏ダイアログとは>

様々な催しがパリ中、フランス中で開催される「ジャポニスム 2018」の会期を通じ、日本とフランスの接触と交流の歩みや 両国共通の課題への取り組みをテーマに、シンポジウムや講演、セミナーを実施します。回ごとに文学、俳句、歴史、芸術、社会科学等の切り口を設定し、「ジャポニスム 2018」に至る経緯と意義について日仏の専門家が共に考察し、語り合います。

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

②俳句討論会「クローデルの日本—『百扇帖』をめぐって」

ポール・クローデル（1868–1955）が、日本大使として勤務した最後の年にまとめたフランス語の句集『百扇帖』(Cent Phrases pour Évantails, 1927)について、クローデル生誕 150 年である 2018 年に、フランス、アメリカの俳人/俳句研究者と現代日本の前衛俳人、そして比較文学者の視点から捉え直します。

③講演会「ジャポニスム：北斎とセザンヌ」— アンドレ・マルローの日本論と共に

パリがジャポニスムに熱狂していた 19 世紀末、マネやドガをはじめとする多くの画家の例にもれず、セザンヌも「北斎漫画」、「富嶽三十六景」に感化され、日本の水彩画の技法を学んでいた一人でした。東北大学名誉教授・田中英道氏をお招きし、アンドレ・マルローの日本論に触れつつ、この北斎とセザンヌの関係について講演を行います。

パリ市内のレストランやワインバーの協力を得て、街中で広く、集中的に、日本の食、お酒、お茶を味わい楽しむ機会を提供します。

「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ 日本のお酒試飲の夕べ 第 1 弾

パリ市内のレストラン、カフェ、ワインバー等の協力を得、日本酒をはじめとする日本の「味わい」に触れて、楽しんでもらう機会をパリのみなさんに提供して、「ジャポニスム 2018」を広く盛り上げる参加型企画を準備しています。

「日本のお酒試飲の夕べ」

パリの地元の人々が日々集うワインバーにおいて、日本の都道府県が自信を持って薦める日本酒（吟醸、大吟醸、純米等複数銘柄）を、地元産のおつまみ品とともに気軽に味わって頂く試飲イベント「日本のお酒試飲の夕べ」を 6 回にわたって開催します。

海外における日本産酒の普及については、関係者・機関がそれぞれの強みを生かして様々な取組みを展開しているところですが、今回はこれまで特に日本との接点がなかったり、日本酒になじみのなかった方も多く参加することを念頭に、プロのフランス人ソムリエによる日本酒に関するレクチャーを組み込んで、日本酒の飲み方・味わい方から丁寧に説明します。

参加するのは、公募で選定した新潟県、佐賀県、広島県、石川県、奈良県、島根県の 6 県で、第 1 弾となる 11 月には以下の 3 県を、2019 年 1 月～2 月に実施予定の第 2 弾では残り 3 県を取り上げます。

新潟県：第 1 夜 11 月 6 日（火）18 時～20 時 会場 le rouge et le verre (8 rue de Maubeuge 75009 Paris)

佐賀県：第 2 夜 11 月 12 日（月）18 時～20 時 会場 Gouquette (108 rue Amelot 75011 Paris)

広島県：第 3 夜 11 月 21 日（水）18 時～20 時 会場 116 pages (2 rue Auguste Vacquerie 75116 Paris)



報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内
担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ 日本食アトリエ<調理師学校・シェフ向け> / 日本茶アトリエ

フランスのシェフ、調理師を志す学生から一般・子供まで、さまざまな層を対象に、お菓子やお茶も含めた日本の食文化を学ぶためのセミナー・ワークショップをジャポニスム 2018 会期を通じて開催中です。理論と実践で日本の食の魅力を伝えます。11 月は日本食アトリエ<調理師学校・シェフ向け> 第 3 回と日本茶アトリエを予定しています。



「日本食アトリエ<調理師学校・シェフ向け>」

パリ 14 区にあるギョーム・チレル調理師職業リセにおいて、将来フランスの美食界を背負って立つ学生に対して、出汁、調味料の紹介から、包丁さばきの実演、和菓子の実食まで濃密なプログラムで日本食の魅力と技を披露して、自身の料理技術向上のヒントにしてもらいます。

「日本茶アトリエ」

レストランやバー、カフェのシェフやソムリエ、パティシエ等専門家向けに、日本茶の歴史、種類、産地などの総合紹介や試飲を行うレクチャーと、日本茶を使ったカクテルやスイーツを紹介するアトリエを実施します。日本茶の基本的な紹介にとどまらず、幅広い日本茶の魅力伝えます。

「ジャポニスム 2018 : 響きあう魂」とは

日仏友好160年の本2018年、両国政府間合意に基づき、芸術の都フランス・パリを中心に、大規模な日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム2018 : 響きあう魂」を開催中。パリ内外の100近くの会場を舞台に、約8か月間に亘り、美術展、舞台公演、映画、その他食や工芸など日本人の日常生活により密着した文化まで含め、さまざまな日本の芸術と文化を、古典から現代まで幅広く紹介します。会期を通じ、約70の公式企画を実施。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、日本文化の多様な魅力をパリに、またパリを通して世界に向けて伝えます。

会期： 2018年7月～2019年2月

事務局： 独立行政法人国際交流基金

公式ウェブサイト： <https://japonismes.org/>



ジャポニスム 2018

報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央(070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp